

#真相をお話します

著者名： 結城 真一郎
出版社： 新潮社

ミステリ界の超新星が仕掛ける、五つの罫。日常に潜む小さな“歪み”を、あなたは見抜くことができるか。子供が四人しかいない島で、僕は「YouTuber」になることにした。でも、ある事件を境に島のひとたちがよそよそしくなっていく…（「#拡散希望」）。日本の〈いま〉とミステリが禁断の融合！緻密で大胆な構成と容赦ない「どんでん返し」の波状攻撃に瞠目せよ。日本推理作家協会賞受賞作を含む、痺れる五篇。

夜の道標

著者名： 芦沢 央
出版社： 中央公論新社

1996年、横浜市内で塾の経営者が殺害された。早々に被害者の元教え子が被疑者として捜査線上に浮かぶが、事件発生から2年経った今も、被疑者の足取りはつかめていない。殺人犯を匿う女、窓際に追いやられながら捜査を続ける刑事、そして、父親から虐待を受け、半地下で暮らす殺人犯から小さな窓越しに食糧をもらって生き延びる少年。それぞれに守りたいものが絡み合い、事態は思いもよらぬ展開を見せていく——。『火のないところに煙は』『汚れた手をそこで拭かない』の著者による、慟哭の長篇ミステリー。

ポタニカ

著者名： 朝井まかて
出版社： 祥伝社

ただひたすら植物を愛し、その採集と研究、分類に無我夢中。莫大な借金、学界との軋轢も、なんのその。すべては「なんとかなるろう！」——日本植物学の父、牧野富太郎。愛すべき天才の情熱と波乱の生涯！明治初期の土佐・佐川の山中に、草花に話しかける少年がいた。名は牧野富太郎。小学校中退ながらも独学で植物研究に没頭した富太郎は、「日本人の手で、日本の植物相（フロラ）を明らかにする」ことを志し、上京。東京大学理学部植物学教室に出入りを許されて、新種の発見、研究雑誌の刊行など目覚ましい成果を上げるも、突如として大学を出入り禁止に。。。貧苦にめげず、恋女房を支えに、不屈の魂で知の種（ポタニカ）を究め続けた稀代の植物学者を描く、感動の長編小説。

JK、インドで常識ぶっ壊される

著者名： 熊谷はるか
出版社： 河出書房新社

普通的女子高生が、インドで暮らすことに。格差社会の光と影、豊かさへの本質と疑問を鋭く描く、女子高生視線のインド滞在記。

マイクロスパイ・アンサンブル

著者名： 伊坂 幸太郎
出版社： 幻冬舎

どこかの誰かが、幸せでありますように。失恋したばかりの社会人と、元いじめられっこのスパイ。知らないうちに誰かを助けていたり、誰かに助けられたり・ふたりの仕事が悪く交錯する現代版おとぎ話。付き合っていた彼女に振られた社会人一年生、どこにも居場所がないいじめられっ子、いつも謝ってばかりの頼りない上司。でも、今、見えていることだけが世界の全てじゃない。優しさと驚きに満ちたエンターテインメント小説。猪苗代湖の音楽フェス「オハラ☆ブレイク」でしか手に入らなかった連作短編がついに書籍化！

宙ごはん

著者名： 町田 そのこ
出版社： 小学館

この物語は、あなたの人生を支えてくれる宙には、育ててくれている『ママ』と産んでくれた『お母さん』がいる。厳しいときもあるけれど愛情いっぱい接してくれるママ・風海と、イラストレーターとして活躍し、大人らしくなさが魅力的なお母さん・花野だ。二人の母がいるのは「さいこーにしあわせ」だった。全国の書店員さん大絶賛！どこまでも温かく、やさしいやさしい希望の物語。

いけないⅡ

著者名： 道尾 秀介
出版社： 文藝春秋

大きな話題を読んだ”体験型ミステリー”第2弾。第一章「明神の滝に祈ってはいけない」桃花はひとり明神の滝に向かっていた。一年前に忽然と姿を消した姉・緋里花のSNS裏アカウントを、昨晚見つけたためだ。失踪する直前の投稿を見た桃花には、あの日、大切にしていた「てりべあ先生」を連れて姉が明神の滝に願い事をしに行ったとしか思えない。手がかりを求めて向かった観瀑台で桃花が出合ったのは、滝の伝説を知る人物だった。

いきたくないのに出かけていく

著者名： 角田 光代
出版社： KADOKAWA

「価値観が変わる」と聞いて避けてきたけれど、いってみたら「書かれ続ける理由」がわかったインド、首から完走メダルを提げたまま、初老の紳士と親指を突き立ててうなずき合ったスペイン……旅好き作家・角田光代がいく先々を歩き回り、走り、感じたあれこれが詰まった傑作旅エッセイ。いきたくないのにと思いつつ旅に出る贅沢に思いを馳せた書き下ろしあとがきも。